

令和2年度 群馬県立吉井高等学校 部活動方針

令和2年4月

1 目的

学校教育の一環として、生徒の自主的、自発的な参加により行い、スポーツや文化及び科学に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等を図る。

2 本年度の部活動

(1) 本年度設置する部活動について

運動部、文化部、同好会を設け、それぞれ顧問教師1名以上、生徒に部長、副部長各1名をおく。

【運動部】

バレーボール部、ソフトテニス部、ハンドボール部、剣道部、弓道部、バスケットボール部、サッカー部（男子）、野球部（男子）、陸上競技部、硬式テニス部、卓球部、体操部

【文化部】

科学部、美術・陶芸部、写真部、ハンドクラフト部、JRC部、文芸部、茶道部・華道部、音楽部、吹奏楽部、コンピュータ部、イラスト部、書道部、新聞部（同好会）

(2) 活動日及び活動時間について

① 週当たりの休養日の設定

- ・原則週1日以上休養日を設定する。

※各部活動ごとに年間計画、月間計画を作成し計画的に活動する。

なお、月間計画については、毎月末までに次月の活動計画書を学校長に提出する。

※大会参加等により、やむを得ず休養日を確保できない場合は、代替休養日を確保する。

② 長期休業中の休養日の設定

- ・週当たりの休養日の設定に準ずる。

- ・生徒が十分な休養をとることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間を設ける。（詳細は各部ごとの活動計画による）

③ 活動時間

- ・合理的でかつ効果的・効率的な活動を行い長くとも平日では3時間程度で練習を終える。
- ・学校の休業日（学期中の土・日曜日を含む）では、3時間程度で活動を終える。

※大会参加や練習試合・合同練習等で終日の活動となる場合は、各部の活動状況や特性に応じて生徒の健康状態に十分配慮して休養時間を適切に設定し無理のないように活動する。

④ 朝練習

- ・放課後の練習時間が十分に取れる日は、原則として行わない。
- ・ただし、朝練習を行う場合は、以下のとおりとする。

活動時間 7:30～8:15

⑤定期考査期間前後の活動

- ・定期考査1週間前からテスト終了までは原則として行わない。
- ・特別な事情により活動をする場合は、学校長の許可を得るとともに、保護者の承諾を得られた場合に限る。

3 経費

- (1) 活動に当たる経費を生徒会費から補助する。
- (2) 各部において部費を徴収する場合もある。ただし、集める場合は、必要最低限とし、金額については保護者の理解を得た上で決定する。その際、帳簿を作成し、年度末等に会計報告をする。監査は教頭及び保護者代表が行う。(会計の管理は必ず複数の顧問で行う。)

4 参加する大会等の精選

群馬県高等学校体育連盟・群馬県高等学校野球連盟・群馬県高等学校文化連盟の主催大会、各種コンクール大会や発表会、県主催、市町村主催、関係団体主催など、多くの大会等が開催されており、生徒の技能の向上だけでなく、心身の健康についても配慮するため、参加する大会等を精選する。

5 部活動運営

(1) 外部指導者について

専門的な指導を求める生徒や保護者のニーズに応えるとともに、教職員の指導力の向上、負担軽減のためにも、校長の了解の下、(部活動指導員や)外部指導者を活用する。

ただし、部活動は学校において計画する教育活動であることを踏まえ、顧問との役割分担を明確にした上で、各部の状況に合わせて活用する。

(2) 部活動検討委員会について

適正に部活動を実施するため、部活動検討委員会を設置する。学校評議員会において、本校の取組状況を報告し、指導助言をいただく。

委員会において、活動内容や活動時間、学校と保護者の連携、学校と地域の連携などについて、顧問、生徒、保護者等の意見を聞きながら必要に応じて改善策等を協議する。

(3) 体罰等の禁止ならびに未然防止

学校教育の一環として行われる部活動では、いかなる場合も指導と称して殴る・蹴ることはもちろん、懲戒として体罰が禁止されている。また、指導に当たっては生徒の人間性や人格の尊厳を損ねたり、否定するような発言や行為があってはならない。

日頃より顧問、生徒、保護者がコミュニケーションを密に取り各部の目標や活動方針を明確にし、相互理解のもと未然防止につとめる。

6 安全対策

- (1) 事故等の未然防止のため、環境整備・安全点検を定期的実施し安全な活動環境を整える。
- (2) 危機管理マニュアルをもとに事故発生時に応急処置、救急車要請、管理職・保護者へ連絡するなど迅速に対応する。
- (3) AEDの設置場所の確認と操作方法について事前確認しておく。
- (4) 顧問教師同士の連絡を密に取り、ヒヤリハット事例などを含めて情報共有し、安全対策を立てる